

問5 (9) シラバス作成の各層の受け止め方について  
(イ) 教官の受け止め方 (概括的にご教示下さい。)

- ・ 概ね良好
- ・ 全般に良好
- ・ 良好
- ・ 良好、リアルタイムの情報提供を望む
- ・ 好意的 (ごく一部 1/70に拒否反応)
- ・ 好意的に受け入れられた。
- ・ 好評
- ・ 概ね好評
- ・ 評判がよい
- ・ 好評 (担当授業のねらい、内容等をあらかじめ学生に周知できる等)
- ・ 特に調査はしていないがおおむね好評。
- ・ おおむね肯定的。
- ・ 非常に有用と思われる。
- ・ 極めて有用である。
- ・ 良
- ・ 肯定的に受け止めている。
- ・ 有意義である。
- ・ 特に調査していない。

- ・作成して1年目なので、まだ評価は出ていない。
- ・初めての試みなので手間がかかった。
- ・平成7年度に初めて作成したので執筆要領にとまどった。
- ・あまり活用されていないと思う。
- ・必用と考えている。
- ・自分が担当する以外の授業の内容を知り、教育内容を調整するのに有効である。
- ・教官が相互に授業内容を把握することで、授業内容の重複をさけることが出来た。
- ・講義内容の見直し及び関連教科との内容調整に役立った。
- ・自分の授業の狙い等を他の教官と調整でき計画しやすい。
- ・他教官の講義内容が理解でき、重複が避けられてよかった。
- ・教官においては授業内容が他の授業内容と重複しないように出来るので良い。
- ・各科目の内容が細部迄明らかとなり、学生の教育上有益。各教官による教育の重複部分が明らかとなり、効率的教育が出来る。
- ・他の教官との間の授業内容調整のための資料として活用できることもあり今後とも作成を続けていくべきと考える。
- ・教官同志で授業内容が重複しない様、調整する事ができる。教官が異動しても、シラバスにそった内容を学生に教示できる。
- ・教官相互の教育内容の重複をさけるなど教育計画をたてる上で役立つ。
- ・他教官の授業内容が分かり、授業効率の向上と授業内容の重複を避けるためにも必用である。
- ・工学部全学科のシラバスなので、授業内容が把握できるため、内容調整が可能となり大変役に立つ。また学生に対し、授業内容を前もって知らしめているので、授業に入りやすい。

・他の教官の講義概要を把握できるので、授業内容の調整等、授業実施に工夫することができる。

・講義内容の重複をさけるのに役立つ。

・授業内容の重複が防止できるとの意見がある。

・授業内容の調整が楽になり、その分講義内容の自由度もふえた。授業の目的、講義計画等を示す事は、教官側にとっても大切なことである。毎年、多忙の時期にシラバスの原稿依頼があるので面倒。各教官の講義内容の重複が防がれ、各対象学生へのレベルをあわせるのに役立っている。シラバスの内容に縛られる心配を感じつつも、学生に対して自らの授業内容をより具体的に提示することができた。

・教官の間の授業内容の調整に役立つ。

・他の授業科目の内容等が把握でき、授業内容の調整に役立つ。書式が統一されるので、その範囲内で表現しにくい面もある。

・各科目での重複指導を避けることができる。特に内科と外科での消化器等の重複がないように授業計画をたてられる。

・教官としては、授業内容の調整が可能になったことで、教官の間で系統的なカリキュラムが組めるようになった点にメリットがあるとしている。

・授業内容の概括的なレベルが把握でき、重複箇所が省けること。

・他の教官の授業内容を把握できるので、授業の重複を避ける等大変有用である。

・類似した教科科目における重複のチェックが可能になった。

・学生に授業に対する認識がでて教官自身も授業に対する取組み意識が明確になった。

・他の教官の授業との兼ね合いを考えることによって自分の授業内容の強調する点を考えることが出来た。

・履修上の手引きとして有効に活用されている。今後は個々の科目のみでなく総体的な履修指導の資料として行きたい。

・教育内容、方法の改善に有効である。

- ・学生とのコミュニケーションが容易となる。
- ・教官相互に授業内容がわかり合えた。
- ・概ね積極的で好意的である。
- ・学部、学科の中で教育分担が明確になったこと、教官相互に授業内容の比較、検討あるいは変更、調整などを図り易くなったことなど、作成を評価する声が多い。
- ・シラバスの必要性、有効性については、大多数の教官が認めている。但しあまり細部にわたる記載は、授業進行その他の状況による臨機の対応がしにくい等の意見がある。
- ・授業時間内に周知する事項の概要が記載されているので、学生に理解されやすい。
- ・詳細はシラバスにすればするほど見なくなるのではないかとの指摘を受けている。
- ・授業についてなぜここまで明らかにしなければならないのかという反発が多少見られたが、時間の経過と共に理解をしていただき、最終的には積極的に協力していただいた。
- ・他講座の授業内容を把握できた。
- ・講義内容を回ごとに示しているのもので、その都度説明しなくても良くなった。他教官の講義内容が一層判るようになった。
- ・次年度の予定を数ヵ月前に提出しなければならないことについての不満等があるが、趣旨そのものに対する反対はない。シラバスの導入は当然のことと考えている教官が大半である。
- ・あまり積極的ではない。現状では反対を唱え難いと思っている人も少なくないと思う。
- ・教官の間の授業の進め方等参考となった。
- ・授業内容に関する情報交換として役立っている。
- ・シラバス作成は、授業担当者として当然と考えている。また情報の交換により授業方法に対する関心が高まってきている。
- ・学部の教育の実態とその問題点をシラバスにより知ることができて有意義である。

- ・従来の「講義概要」とそれほど変わらないという声もあるが大学の紹介や留学生の指導などに使いやすくなったという声もある。
- ・学部全体の授業の中で担当する講義の位置づけが明確に把握できること。
- ・従来の進め方の確認ができ、授業内容について学生に説明するのに役立った。
- ・学生の立場で考えれば、現在の「手引」よりも他大学で採用している「シラバス」が望ましい。しかし各担当教官の意識に差がありこれをどうするかが課題。
- ・学部の内外を問わず相互の授業内容について広く理解を深めることができた。
- ・事前に授業内容等を周知できるので好評である。
- ・苦勞して作成したのに反して、学生はあまり活用していないのではないかとと思われる。
- ・学生にシラバスを示し、学期末には授業評価を行うことによって教育内容の改善に寄与できる。
- ・学生への情報提供として好評である。
- ・他教官の講義内容を知ることができ、それぞれの教官の講義範囲の策定や教科書の選定などの参考になることが多く好評である。
- ・授業科目の概略を情報として提供することは必用だと大部分の教官はうけとめていると思われる。なお各回ごとの授業内容を掲載したり、成績評価の方法や予習復習の指示する等細部にわたる情報提供を行うことが必用だという合意はない。個別対応に任ねている。
- ・学生のために必用な情報提供であると認識されている。
- ・年間計画に基づいて講義を進行するようになった。
- ・シラバスで示した授業計画に沿って授業を行うよう努力している。
- ・賛同し協力する方向。
- ・場合によっては1年以上先の科目内容を記さねばならないことがあることに対しては不評が多い。

- ・授業内容のとりこぼしが無く、系統的講義ができる。
- ・授業内容の再検討機会。 学生に研究先端を手短に伝える機会。
- ・シラバスの有無で特に変わった点はないように見える。
- ・現時点では「厄介なことをしてくれる」という意識の教官が多い。
- ・平成4年度より毎年度改訂している。当初は雑務の加重との意見もあったが現在では担当科目の自己点検、関連科目間の授業内容の調整、学生への情報伝達(授業内容、評価方法、参考書、オフィスアワー等)の資料としての意義が認識されている。
- ・自分の授業を見直すことができた。
- ・他の教官が何を教えていて、境界領域を各教官がどこまで踏み込むべきか理解でき、きわめて有用なものであるという受け止め方をしている。
- ・作成の意義は認める意見は多いが授業展開の柔軟性をさまたげるという声もあった。
- ・コスト削減を念頭において作成する。厚過ぎるという批判も多いのでスリムにするため、様式を縮小するなどの編集方法を考えるべきである。
- ・必要性は感じない。作成費用が研究費からとられるのは困る。
- ・多様である。
- ・積極派と消極派に分かれる。
- ・他の教官の授業内容がよくわかった。
- ・シラバスは、授業内容をより良いものにという考えで作成されているので教官がその都度、再確認する点でもよい。講義の予定を早くから立てることになって準備不足を相対的に減らす効果があるが、半年も前から次年度の講義予定を立てることにわずらわしさを感じる部分もある。
- ・担当部分の授業内容には関心があるが、他の教官のシラバスには、あまり関心がないようである。教務委員会又は委員はカリキュラム等の調整時に役に立っている。
- ・より充実の方向に向かっていると評価している。

- ・事前に情報提供することにより、各授業に関心のある学生が授業に参加する傾向にする。
- ・作成するための負担は大きいですが、科目の情報を学生に提供できる。
- ・(8) ア)に記述 (注)他の教官の講義内容、類似科目等を把握できると共に相互性が図れる。
- ・教授内容がシラバスにあらかじめ記入した事項に若干限定されてしまう恐れがある。学生へ教官のプロフィールをあらかじめ知らせることができる。
- ・情報公開上役立つ。
- ・計画的な授業がこれまで以上に成されるようになった。他の教官が担当する授業内容を容易に把握でき、各々の授業の参考となった。
- ・授業を計画的、系統的に進め易くなった。
- ・学生に自己の授業情報をより多く事前に伝えることができる。
- ・もっと良い講義要綱にするために、委員会等で検討している。
- ・年毎に作成し直すのは面倒という意見あり。
- ・授業科目としての概要及び授業の計画等の情報を学生に提供する。
- ・他学科と比較すること。
- ・シラバスの意義について合意はなされているが講義する相当前に作成しなければならぬため、講義内容の変更等の可能性も考慮に入れられるように弾力的にすべきという意見もみられる。
- ・今後より充実させたい。
- ・他教員の講義内容が詳細にわかるので事前にあるいは同時に履修することが望ましい科目を学生に示すことができる。
- ・授業の特色を学生へアピールできる。

- ・学生に対する情報提供が主で副次的にカリキュラム検討の資料あるいは教官の授業内容の調整にも用されている。
- ・授業計画に沿って授業が進められる。
- ・シラバスの作成に手数は掛かるが他の教員の授業概要を知ることができ、教育内容、方法の改善等に参考となる。
- ・授業に対する考え方の違いからか、詳しい情報は不要であるという群と、より詳しいシラバス作成をすすめるべきだという群の2つに分かれる。
- ・教官、学生共授業に対する姿勢が明確になってよい。
- ・講義内容の調整に役立つ。他の教官の具体的な講義内容を知り学生の理解度を推定できる。
- ・教育効果があったと思われる(学生の自発的な学習、教官自体の系統的整理等)。
- ・講義に入る前に教授内容がガイダンスされることにより、学生の教材の予習等がなされ、授業の効果が向上した。
- ・学生の学習効果があがっている。
- ・学生が履修計画を立てるのに非常に役立っている。
- ・当初は書くことに多少抵抗があったが、現在はおおむね好意的である。
- ・各講座1ページでは書ききれない。
- ・他の教官の授業内容がよく分かる。教養的科目の内容を把握することは専門学部の教官にも重要。関連科目、事前に履修することが望ましい科目を呈示できる。
- ・教官研究費から経費を支出することは困る。学生が有効に活用するかが疑問である。教員養成系学部として、作成にあたっては多様な面がある。
- ・必用なことという認識が形成されつつある。
- ・各教官の授業内容が一覧となっていて、学生への説明を省略できるため喜ばれている。



- ・授業計画を詳細に明示し、評価方法まで示すことには未だ抵抗感があった。
- ・他の講座の授業内容が種々分かり担当授業との関連ができ好評。
- ・各回ごとの授業内容明示により授業科目間の連携がとれるようになった。
- ・教官の授業姿勢(学生へのサービス)の改善に役立った。
- ・目的意識をもった学生を集めることができる。
- ・シラバス作成の段階から、学生の顔が見えてくる。授業計画、概要、ねらいを学生に示すことにより、毎回の授業の準備にも力が入り早くから準備に取りかけられる。大変好評である。
- ・要領がまだよくとらえられていない。
- ・シラバス作成を通して共通教育と専門教育の相互関連性について理解を深める傾向があり、将来の4年一貫教育の基礎として役立っていると思われる。
- ・テーマと教育目標を提示したため学生の自学自習が可能となる。
- ・お互いの授業内容もわかり、自らの講義の目標を設定しやすい。
- ・授業内容を学生にあらかじめ詳しく説明できるので大変よい。

特に新設間もない学部では、関連する科目の授業内容が知れて都合がよい。

授業内容の概要を知る上で参考になっている。

- ・上記と同様の意見で（（注）冊子が厚いので持ち運びが不便である）その改善策としてシラバスをデータベース化し、各所に端末を備え、そこから検索できるように現在その構築中である。
- ・普通（教官は各授業ごとに更に詳しい授業計画を作成し授業開始時に受講生に配布している）
- ・現行のシラバスに対して、約半数の教官が量的質的に適当であると受けとめている。ただし、科目によってはシラバスは概括的なものでよいとする意見がある。

- ・ 学生への情報提供の場として、必用なものと考えている。
- ・ 大学改革の一環ととらえ、各教官が作成に協力している。
- ・ 計画的な授業を進められるようになった。
- ・ 授業内容に計画性をもたすことができる。
- ・ 他の教官の授業の概要などを知ることができ参考となる。自己の授業計画の反省にも生かしている。
- ・ 講義要目に比較すると内容は充実したが、これでシラバスと呼べるだろうか。シラバスとするには各科目の頁スペースを増す必要がある。
- ・ 作成にあたっては、多くの労力を強いられるが、教育内容、方法等のチェックができ有用である。
- ・ 講義の内容と性格を事前に伝えることができるので効率的である。
- ・ 積極的な人と消極的な人に分かれている。若い教官の方が積極的。
- ・ 近縁の科目の内容を知ることができるので効率的な講義の進め方ができる。学部全体の教育内容を総合的に考えていく上で多いの参考になる。
- ・ 今日までシラバスがないのが不自然で、授業内容が教官相互にあらかじめ解ること、学生に知らせることは当然と考えている。
- ・ 授業内容以外の指示すべき事項を伝達できる。
- ・ 執筆のための作業量が多いが、それを上回る利点があり好意的な意見が多い。
- ・ 学生へのメッセージ伝達とともに教官相互間の授業計画調整のための資料。
- ・ 授業(講義)概要と考えられている方と授業(講義)計画と考えられる方がおられる。
- ・ 授業の進め方の計画がはっきりするだけでなく他の授業の内容がわかるので好評である。
- ・ 学生が前もって準備をしているので授業がやりやすかった。

- ・学生への情報提供を初めとして授業内容の整理・カリキュラムの検討資料などシラバス作成の意義を認識して積極的に協力している。
- ・学生に情報を与えるためには必要。
- ・(8)の理由により、特に現時点で評価、意見の聴取を行っていない。  
 (注)平成8年度以降は、各授業の内容要旨について掲載内容を充実させた「講義概要(シラバス)」として発行予定であるが、平成7年度までは、「授業科目履修案内」として履修細目、科目表、学則等諸規程、各授業内容要旨等を併せて掲載し発行している。このため必要不可欠の冊子であり、特に評価、意見の聴取は行っていない。
- ・事前に詳細な授業計画を立てる困難さがある。
- ・現在の大学教育においてはシラバスが必要であると考えている教官が大部分であるが一部には不要論者もいる。
- ・準備時期が前倒しになる。
- ・作成しにくい。
- ・他の授業科目の内容や計画を確認でき自らの教育実践を点検することができる。
- ・学生の学力向上に役立っている。
- ・評価は良いが、書ける枠が小さく、意図が十分に尽くせない。
- ・必要性を感じある程度の効果を認めている。
- ・具体的には、今後アンケート調査を実施し評価する。
- ・講義を進めるうえでのペース配分がよりわかりやすくなった。講義を始める前にあらかじめ学生に情報を与えることができるので、スムーズに講義ができる。
- ・授業の内容、概要が事前に周知でき効率的である。
- ・シラバス作成の必要性は認識しているが全学統一様式への反撥は強い。
- ・必要性の理解が深まった。

- ・自己点検に役立った。
- ・仕事量が増すが、やらなければならないことと了解している教官が大半と考えられる。シラバスが授業を進める上の一つの指針となるので教える側も益があると感じている人も多いはず。
- ・歯学部はほとんどすべての専門科目が必須であるからシラバスは授業内容を把握させることに重点を置いている。
- ・各教官の講義項目、授業内容が明確になり、教官から好評である。
- ・全体的な授業内容を把握するのに便利である。
- ・授業を効果的に進めることができ概ね良好である。
- ・シラバスの書式の統一について教官の調整に神経を費した。結果的には教育上、有効な資料となり得た。
- ・基本的には賛成であるが実行力のあるものにするには、今後とも改革が必要である。
- ・肯定的。他授業科目の内容が参考になる。
- ・概ね肯定的であるがサイズ等の意見が多い。
- ・ゼミ生等への科目選択指導の際に有益である。
- ・講義の計画を立てる上で有用。
- ・授業内容、教科書等をあらかじめ指示しているので授業がやりやすい。
- ・関連科目の教育内容や教育方法等を知ることが可能となり、必要に応じて教育担当者間の連携を行うことができる。
- ・あって当然。授業計画を立てる上でも利用できる。
- ・履修指導がしやすくなった。
- ・1月現在で、来年度の詳しいシラバスは作成できないという教官もいる。

- ・更に充実した内容にしたい。
- ・原稿作成が少し面倒であるが、カリキュラムの全体像がわかるメリットがある。
- ・計画的な授業が立てられて好評。
- ・授業に対する責任感が増大している。
- ・1年間の授業、実習の計画性が高まった。
- ・関連分野の講義内容を知ることができ、また、講義を系統的かつ効果的に行うことができるなど、有用であると受け止めている。
- ・授業内容の全容を把握しやすい、学生の指導に有益である。
- ・作成の初期段階では、一部教官から年間の計画は流動的で年度当初に立てにくい等の意見があったが、現時点では全ての教官が協力的である。
- ・ずしも授業計画の表示どおり授業が進展しないので、表示の検討が必要である。
- ・パソコンに入れて必要な部分だけ学生が取り出せるようにしてはどうか。
- ・自己評価に役立つ。
- ・他の教官がどのような授業をしているか把握でき自己評価に役立つ。
- ・学生への授業内容、計画等を示すことがより容易である。
- ・時間と労力がかかる。
- ・授業が計画的になる。他の教官の授業内容が判り面白い。授業のフレキシビリティが失われ易い。
- ・教官各自の授業を計画的に実行し、授業内容を教官相互で調整できるなど全体として教育効果を高めるメリットはあるが、反面柔軟に授業を実施できないというデメリットがある。
- ・全学的に作成して日も浅く内容的に統一できてなく、よりよいものにしていく事を望む。
- ・比較的良好。活用方法について更に検討が必要。

- ・体系的、計画的な講義ができるようになった。学生の講義に対する準備ができており講義がしやすくなった。
- ・必ずしも授業計画通りにいかない場合がある。
- ・計画的な講義、実行度の増大に役だった。
- ・学生への基本的サービスであると共に講義を見直す好機であると積極的に評価する教官が多い反面、種々の理由で嫌悪感を持つ教官も存在する。
- ・授業内容、評価方法等 今後の教育方法や授業計画の参考となっている。
- ・一年以上前から具体的な授業計画を立てにくいという一部意見もあった。
- ・他教官の授業について情報を得られ、学生にも情報を与えることができる
- ・授業のねらいや概要を学生に対して知らせ、履修の参考に供することができたという点でおおむね積極的の評価されている。反面大学院の演習について過度に詳細なシラバスを作成することについては批判的な意見が強い。
- ・授業計画の全体像を掲示しているので、自己点検の一手段となる。
- ・特に意見は集約していないが 学生のコース選択に大変有益であるとの意見が多い
- ・特に現れていないが、項目について相違した考えがある。
- ・授業計画を公表することにより より計画的な講義日程で授業を行うこととなった。また授業内容に対する責任感が増した。
- ・授業計画が示されることになるので 実施面での制約がでてくる。
- ・自分の授業の内容を学生に紹介することができる。また シラバスにより他教官のとらえ方等を垣間見ることができる。
- ・有用であるので改訂を加えていく必要がある。
- ・本学部のシラバス(講義概要)は長い歴史があるが、授業計画型のシラバス作成には教官の合意を得られない。

- ・不慣れな教官もいて形だけにとどまったケースもある。
- ・運営がスムーズになり大変助かっている。
- ・講座の枠を超えて一つの授業科目に出講することとなり、毎年度の改訂及び授業担当教官の調整には教科主任を初めとする強力なリーダーシップが必要とされる。
- ・シラバスをあらかじめ提示できる授業とそうでない授業(ゼミや演習など)があり全授業の表示を一様化することにとまどいを覚えている。
- ・特に異論、反対はない。
- ・授業進行の基準設定として必要。
- ・全体像がわかりやすくなり、作成してよかったと思われる。
- ・長所、短所があり出張による休講が突然生じた場合、計画的に変更できる長所と自由度が少ないと言う短所がある。
- ・授業計画を綿密にして授業の体系化ができる。
- ・他の教官の授業内容、進め方等についての理解が広がった。研究面での相互交流の進展とともに講座間の垣根を低くするものとなった。
- ・各教官の講義内容や授業の進め方がよく理解できた。
- ・日本の大学では従来「講義概要」のような形で簡単な情報が公開されていただけであるが、シラバスが従来のそれとどのように異なるのか十分な論議を積み重ねられていない。したがって、非常に簡潔な記述に留める教官と詳細な講義計画を記述する教官とがいる
- ・教官お互いの講義内容を知ることができて好評である。
- ・作成に際して繁雑さはあるものの受容されていると考える。
- ・労力は大変であるが今後の学生による授業評価等も考慮に入れ充実すべきである。
- ・授業を行う上で役に立っている。
- ・積極的に活用しようとする教官が増えてきている。

- ・好意的に受けとられ、シラバスを積極的に活用しようとする教官が増えてきている
- ・講義内容を前もって知らせることにより、受講科目の選択に役立つ。他 講義内容を体系的に理解させることができる。
- ・授業計画を立てることにより、体系的な講義ができ、学生の理解も深めることができる
- ・学生と共通理解のもと講義を進めることができた。
- ・授業計画及び改善に役立ったと評価している。
- ・講義内容を前もって提示することによって、それがあ程度度の努力目標になり、計画的な指導を行うようになるという面もある。
- ・日常の授業内容の整理には役立つと考える教官は多いが、シラバス作成の効能は少し時間をかけて調べる必要があると受けとめられている。
- ・作成には苦勞するが役立っている。
- ・シラバスを配付したが、学生が予習をしている様子はない。教官間の授業内容の検討に役立った。
- ・学習効果が期待できる。教育研究体制について検討するための資料となる。
- ・授業に向けての心構えができる。一つの目安であって、あまりにも縛られるものであって欲しくない。
- ・評判がよいが若干の改善が求められる。
- ・他教官の授業内容を知ることにより、自己の授業に取り入れる部分を見出すことができた等、参考になった。
- ・計画的に授業を進めることができる。反面単調な講義になってしまうことが懸念される。
- ・賛否両論 (8)イ関係とからめて (注) 計画にしばられて学生の理解度に応じた進行がおこないにくい。
- ・他の科目との関連で授業の進め方を調整できる。



- ・内容をもっと詳しくする必要がある。

- ・本大学院開設時から行われてきたことなので、否定的な意見は少ない。ただ学生の授業評価などをみていると、あまりにシラバスにとらわれ、講義に対して受け身の姿勢がみられる点が気がりである。

- ・研究科全体の講義内容を具体的に把握できて有用である。